父子関係の原理

祈祷の重要性　1979年4月15日

ベルベディアにて

　**天宙の中心とはなんでしょうか。天宙の中心的法則・原理は、父子の関係です。それがすべての出発点です**。家庭においても父子の関係が中心であり、他の関係はそこから出発して家庭というものを構成します。社会においても一つの家庭が父の立場に立ち、他のすべての家庭は子供の立場に立つという、父子の関係です。会社においても社長が父の立場であり、社員は子供の立場です。こういう父子の関係です。これは国についても同じことが言えます。大統領や国の責任者が父の立場、人民は子供の立場に立つわけです。国の中心である大統領、会社の中心である社長が父親としての心情をもって他に接すれば、それは真の中心者となります。もしそうでなければ、それは偽者です。

　国の大統領とあなたの父親の基準とを比べて、どちらがいでしょうか。正しい関係においては、父は国の中心者を自分の子供を愛する以上に愛さなければならません。なぜなら父も、その中心者に対して子供の立場に立つからです。そしてまた、その父は自分の子供に対して、国のリーダーを自分以上に愛してほしいと願うのです。つまり、親は子供に対して愛国者となるように願うわけです。国のために、たとえ自分の家庭、氏族、民族を犠牲にしても、国を愛してほしいと思うのです。そのような道を行くのです。しかし、国の大統領が最終ではなく、天宙の大統領が最終であり、その上に全能の神がいます。天宙の大統領は、他のすべての人々が彼に忠誠を尽くすように、全能の神に忠誠を尽くさなければなりません。どうしてそうなるかといえば、それは個人から神に至るまで、一つの中心、一つの線で結ばれているからです。つまりすべての個人から神まで、一つのブリッジで結ばれているのです。

　もし会社において、**社長が父親の心情で社員のために働き、社員が子供の立場で親に対するような心情で働けば、その会社は発展して義の会社となります**。では統一教会においてはどうでしょうか。統一教会は父子の関係で成っています。私たちの目標は統一教会ではありません、**統一教会の発展のために働いているのではありません。私たちは父と子が一緒になって、個人や教会よりも大きな目標に向って働いているのです。国のため、世界のため、天宙のために、**私は常にあなた方に「自分を犠牲にして国のため、世界のため、神のために働きましょう」と教えています。「統一教会の発展のために働きなさい」と教えたことは一度もありません。もし統一教会が本物の教会であって、こういう生き方をしていれば、その理念は国の、世界の中心理念となるでしょう。私たちは氏族のメシヤから民族、国家、世界のメシヤになることができるのです。**さあ、父子の関係について、よくわかりましたか。**　**私は原理を探求していた時、苦悶しながら昼夜祈りました。その中心的祈りは「神よ、宇宙の出発点はなんですか。あなたの中心原理はなんですか」ということでした**。

何年もの苦悶の祈りの中で、ついに「宇宙の中心的出発点は父子の関係である」と答えが与えられました。それは鍵であり基台なのです。**私たちはこの父子関係の原理を実行することによって、平和な一つの統一された世界を築くことができるのです**。

そのようにこの宇宙が父子の関係で創造されたので、あなた方はお互いに兄弟姉妹の関係になるのです。それ以外にありません。なぜなら共通の親を持っているからです。一人の父のもとに兄弟姉妹なのです。

　両親が子供をみた時、下の子がお兄さんを両親よりも愛したからといって、両親は嫉妬するでしょうか。親は、子供たちが兄弟姉妹として愛しあう姿を見て喜び、そういう姿を見たいと思うのです。統一教会においても同じです。あなた方が真の兄弟姉妹として、**天のお父様を愛する以上に互いに愛し合う姿を見て、お父様は喜びます**。それはなんとすばらしい姿でしょう。真の息子・娘になる前に、まず兄弟姉妹として、両親を愛する以上に愛しあわなければなりません。**それは両親に対する最高の贈り物です**。そのような息子・娘になれば、両親に対して、より近くなります。このことが間違っていると思いますか。原理を知らない人であっても、「まちがっている」とは誰も言えません。これは常識なのです。

　**統一教会は、一つの共通した法則があります。誰が本当の統一教会のメンバーであるかと言うと、それは私を愛する以上に、兄弟姉妹として助けあい、愛しあう人です。そういう人が本当の統一教会のメンバーです**。それは私だけの考えではなく、国の大統領や会社の社長、また、もし世界の長というものがあるとすればその考えであり、神ご自身の考えなのです。一つの原理は、すべての違うレベルに働くのです。**それは単純な法則です**。